

認知症になっても安心

認知症に関する相談や支援を行い、認知症に対する認知症は、早期の対応で進行を緩やかにできるといわれています。ひと

認知症と向き合いながら楽しく暮らしている夫婦へのインタビュー

Aさん(80代男性)は我孫子市に住んで40年。妻と子どもとの3人暮らしです。認知症と診断され、要介護認定を受け、居宅介護支援事業者のケアマネジャーと相談し、週2回デイサービスに通っています。

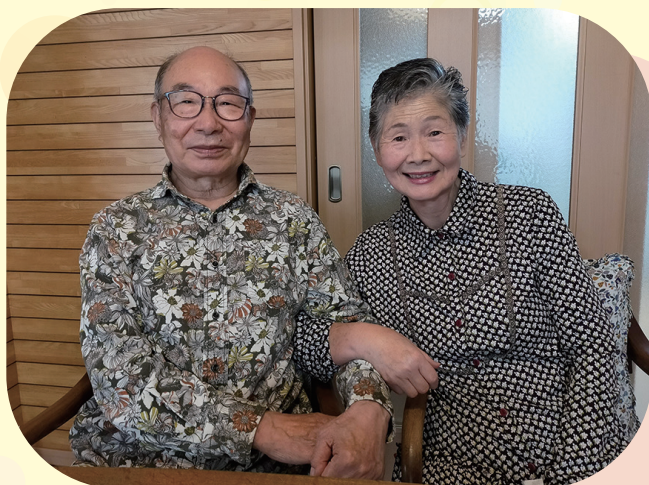
Aさんに聞きました

Q. 認知症で困っていることはありますか？

現時点で困っていることは特にありません。カレンダーに自分たちの予定を書いて、忘れないようにしています。

Q. 今の楽しみは何ですか？

デイサービスが楽しみで、皆さん親切にしてくれます。家では、時代劇を見たり、缶ビールを飲むことが楽しみです。



担当ケアマネジャーから

2人は互いに支え合い、物事を素直に受け止めながら前向きに人生を歩んでいるすてきな夫婦です。Aさんの認知症の進行が緩やかなのは、Aさんの妻の関わり方が一番大きいと思います。

サービスの調整に当たっては、Aさんの妻の体調や趣味を考慮しました。本人と家族の意思を尊重し、生活背景に合った調整を心掛けています。

◎**ケアマネジャー** 要介護者・要支援者の相談を受け、心身の状況などに応じた適切なサービスを利用できるように、自治体やサービス事業者との連絡調整などを行う専門職です。

Aさんの妻に聞きました

Q. Aさんが認知症と診断されるまでの経緯を教えてください。

夫は、60代後半の心臓手術の後、顔つきが変わり、私への被害妄想が強くなりました。悩んでいたところ、友人に高齢者なんでも相談室を勧められて相談し、病院の受診を勧められ、アルツハイマー型認知症と診断されました。子どもには病名を隠さず伝えました。医師には「デイサービスで多くの人と話すことで進行を緩やかにできる」と言われました。今では被害妄想は落ち着き、優しい夫に戻りました。

Q. 現在はどのように過ごしていますか？

夫は、デイサービスに行かない日は私と一緒に散歩や買い物をして、帰った後は時代劇を見ている。掃除や食器洗いをしてくれるのでとても助かります。夫がデイサービスに行っている間は自分の時間で、病院に通ったり、趣味を楽しんでいます。今が一番平穏です。

Q. 接し方で気を付けていることはありますか？

夫に話しかける時は語尾を伸ばして優しく話しかけています。夫は、毎日同じことを聞いてきます。特に孫については心配なのか、よく聞かれます。机の上のボードに気になったことと確認したことを自分で書いてもらい、分からなくなった時に見返してもらっています。

！ 認知症について伝えたいこと

定期的に友人と話をしています。自分と同じように夫が認知症の友人もいますが、症状がそれぞれ違うので、接し方もこれが正しい、ということはないと思います。子どもにも認知症の症状はさまざまだということを伝えていきます。

同じ年代・境遇の方と話すことは共感できることがたくさんあります。認知症は誰でもなり得るので隠す必要はなく、友人や周りの人に助けてもらうことが大切だと思います。

デイサービス

食事・入浴といった日常生活の支援やリハビリテーションなどを受けられる介護保険のサービスです。利用には要介護認定を受け、ケアマネジャー・各地区高齢者なんでも相談室に相談する必要があります。